

## 技術革新と難防除対策

わが国の水田場面での除草剤の使用技術は、世界に冠たるものである。2,4-Dが導入されて以来、官民一体となった水田除草剤の技術開発は、世界にその類を見ないといっても過言でない。

特筆すべきは、粒剤の開発で、生態的な選択性を確たるものとし、水田における除草剤の使用を不動のものとした。

PCPの魚毒問題は、低魚毒性除草剤におきかえられ、問題雑草であったマツバイは、たちどころに駆逐された。現在、問題となっているホタルイ・ウリカワなどの雑草も、早晚解決されるであろう。

これらの技術の革新は、一面で、わが国の水田面積の大きさに裏打ちされたもの、言い換えれば採算ベースに見合った市場であったという事実も見逃せない。

反面、難防除病害虫用農薬やマイナー作物への適用農薬の欠除という場面を生じている。難防除病害虫でも、主要作物であれば、看過されることもあるまいが、マイナーな作物になると救いようがない。登録取得のむずかしさと相まって、農家の現実に困る場面がふえつゝあるようだ。

ほんとに取りこぼされる場面での、官民一体となった技術革新が、水田除草剤の場合と同じように展開できるよう、系統農協も取り組みたい。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事  
全国農業協同組合連合会肥料農薬部長 平川康記〕

## 目 次 (第13巻第3号)

雑柑類の落果防止……………	2
＜福岡県園芸試験場 栗山隆明＞	
1. はじめに……………	2
2. 晩生柑の落果波相……………	2
3. 落果の原因……………	2
1) 早期落果の原因……………	2
2) 後期落果の原因……………	3
4. 落果防止対策……………	3
1) 園地環境の整備……………	3
2) 植物調節剤の利用……………	4
5. おわりに……………	7
畑地用微粒剤の機械散布……………	7
＜農業機械化研究所 津賀幸之介＞	
1. はじめに……………	7
2. 粒剤の物理性……………	7
3. 粒剤散布機……………	8
4. 粒剤の吐き出し量……………	10
5. 散布性能……………	10
畑地用粒剤の除草効果……………	13
＜農事試験場畑作部 野口勝可＞	
1. はじめに……………	13
2. わが国における畑作の条件と 除草剤使用……………	13
3. 畑地における粒剤の除草効果……………	14
4. 粒剤の効果の変動……………	15
5. おわりに……………	18
外国文献抄録……………	19
植調協会だより……………	20

表紙の写真は、ナガエコナスビの種実表皮細胞を走査電子顕微鏡で撮影したもの；網目突起型×3800  
〔写真提供者；笠原安夫氏〕